

市川市斎場再整備基本方針（概要版）

1. 業務目的

市川市斎場（以下、「斎場」という。）は、昭和55年の開設から39年が経過し老朽化が進行している。また、今後、高齢化が進行する中で、火葬需要の増加が見込まれ本市の斎場の処理能力を超えることが予想されると共に近年の葬祭に関する多様なニーズへの対応等が求められている。火葬炉についても、近年のものに比べ性能的に劣ったものとなっている。このような状況から、斎場の建替えを前提とした斎場の再整備方針を策定することとした。建替えにあたっては、現在の斎場を稼働しながら建替える必要があること等を踏まえ再整備方針を作成し、併せて、新たな火葬場の整備及び維持管理運営を民間事業者のノウハウを活用して行うことにより、効率的で良好な市民サービスの提供が可能か、事業手法について検討を行うこととした。



図-1 市川市斎場の位置図

2. 市川市斎場の概要

表-1 市川市斎場の施設概要

所在地	市川市大野町 4-2610	
敷地面積	約 11,000 m ² （都市計画決定部分）約 19,770 m ² （現駐車場（都計区域外）を含む）	
地域地区	市街化調整区域、都市計画施設（火葬場）	
建蔽率・容積率	50% 100%	
開設年月日	昭和 55 年（1980 年）	
構造・規模	鉄筋コンクリート造平 2 階建 延床面積 4,217.53 m ²	
施設概要	火葬炉 10 基（すべて特大棺受入可能） 礼拝堂（ホール）1 室／炉前室（ホール）1 室／告別室 3 室／収骨室 2 室 待合室 5 室（洋室 3 室、和洋室 2 室） 霊安室 1 室 納骨室 1 室 冷蔵室 1 室（3 体）、売店	
	火葬料 （非課税）	市内居住者：大人（15 歳以上）6,750 円 小人（15 歳未満）4,720 円 市外居住者：大人（15 歳以上）50,000 円 小人（15 歳未満）34,000 円
	式場	第 1 式場 200 席（500～1,000 名程度可能） 9,470 円/1h 第 2 式場 50 席（100～200 名程度可能） 4,280 円/1h 第 3 式場 100 席（200～500 名程度可能） 6,390 円/1h
	職員用事務室、駐車場（乗用車 134 台（うちマイクロバス 10 台））	
業務内容	火葬業務、施設使用許可等業務、遺体搬送業務、祭壇等設置業務 維持管理業務、運營業務、警備業務 など	
業務時間	午前 8 時 30 分～午後 5 時	
休業日	1 月 1 日～1 月 3 日、友引の日（式場の貸し出し業務のみ実施）	
アクセス	JR 総武線「本八幡駅」北口または、JR 武蔵野線「市川大野駅」から市営霊園經由市川営業所行き市営霊園下車、動植物園行き（土・日曜日の昼のみ運行）市川斎場下車または、JR 総武線「下総中山駅」北口から市営霊園行き終点下車	

3. 課題の抽出

現在の市川市斎場の課題を以下に示す。

- ① 火葬需要の増加への対応が困難
- ② 施設の老朽化による維持管理コストの増加
- ③ バリアフリーへの対応が困難
- ④ 多様な葬祭ニーズへの対応が不十分（増加する家族葬や減少する大規模葬儀、通夜等への対応等）
- ⑤ 環境保全目標の未達成（新火葬炉の目標値は未達成）
- ⑥ 労働環境の改善や消費エネルギーの削減
- ⑦ 非常時への対応（大規模災害時等の非常用電源、人員確保等）
- ⑧ 火葬業務を継続しながら建替えの実施
- ⑨ 都市計画法による未決定部分（駐車場部分）の都市計画決定が必要
- ⑩ 環境アセスメントの実施（市民の理解を得るため任意の環境影響評価を実施）



図-2 市川市斎場の全景

4. 火葬需要予測

4.1. 火葬需要予測のための人口推計

火葬需要予測のための人口推計では、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」（平成30年推計）をベースに2060年までの人口推計を行った結果は以下のとおりとなる。

表-2 将来人口推計結果

	2015年 (H27)	2020年 (R02)	2025年 (R07)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)	2050年 (R32)	2055年 (R37)	2060年 (R42)	2065年 (R47)
総人口	481,732	485,852	486,429	484,486	479,925	473,746	466,339	440,701	418,759	390,957	360,686
男	242,652	243,271	242,736	241,142	238,566	235,495	231,785	219,694	207,464	192,790	177,661
女	239,080	242,581	243,693	243,344	241,359	238,251	234,554	221,007	211,295	198,167	183,025

2050年以降は、「日本の地域別将来推計人口」（平成30年推計）を参考に封鎖人口を試算したものの。

4.2. 年間死亡者数の推計

将来の推計人口に基づき、死亡者数を算定した結果は以下のとおりとなる。

表-3 年間死亡者数の推計結果

	2015 ~2020 (H27 ~R02)	2020 ~2025 (R02 ~R07)	2025 ~2030 (R07 ~R12)	2030 ~2035 (R12 ~R17)	2035 ~2040 (R17 ~R22)	2040 ~2045 (R22 ~R27)	2045 ~2050 (R27 ~R32)	2050 ~2055 (R32 ~R37)	2055 ~2060 (R37 ~R42)	2060 ~2065 (R42 ~R47)	2065 ~2070 (R47 ~R52)
死亡者数	4,124	4,787	5,453	6,009	6,327	6,250	6,369	6,071	6,564	6,634	5,997
増加率	1.00	1.16	1.32	1.46	1.53	1.52	1.54	1.47	1.59	1.61	1.45
男	2,234	2,576	2,911	3,169	3,288	3,283	3,422	3,427	3,591	3,506	3,128
女	1,890	2,211	2,542	2,840	3,039	2,967	2,947	2,643	2,973	3,128	2,869

死亡者数は、今後、急速に増加し、約10年後（2030年）には、約6,000名になると試算された。その後、緩やかに増加傾向をたどり2060年には約6,630名を超えることになる。